

●テレビ部門・大賞

大賞は連続テレビ小説「カーネーション」。音好宏理事長から トロフィを受け取るNHK大阪放送局チーフ・プロデューサー の城谷厚司さんは、「思いっきり泣く、叫ぶ、笑う。そんな熱 い現場を作ってくれたキャストの皆さんとスタッフ、そして脚

い現場を作ってくれたコ 本の渡辺あやさん、装子 アルになった小篠綾子 さんに感謝したい、 喜びの言葉を述べ、 「苦労からあっと」 間に立ち直るエネルギーを描きたかった。そして、その生き方からというであることを伝えたかっ た」と語った。





選奨受賞者の前で講評を述べる上滝徹也テレ ビ部門選奨委員長。最後に大賞を発表した。

●テレビ部門・優秀賞



「新しいことにチャレンジしようとしま したが、視聴率の低さには苦しみました。 打ち切りにしなかった会社の上司に感謝 している」と語る「鈴木先生」のテレビ 東京・山鹿達也プロデューサー。

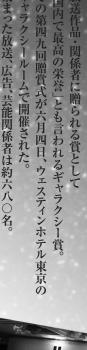


NHKハイビジョン特集「しあわせのカタチ〜脚本家・木皿泉 創作の"世界"」の伊豆田知子プロデューサー。「これまでにない新しい手法のドキュメンタリー に、二人も快く参加していただいた」。



「世界の果てまでイッテQ!イモトが挑 む南米大陸最高峰アコンカグア登頂スペシャル」の日本テレビ・加藤幸二郎さん。 「登頂に失敗したとしても、安全に帰っ てもらえることが一番でした」と語った。





ビ部門の順に、それぞれの入賞作がステージで表彰され からCM部門、ラジオ部門、報道活動部門、

た作品が発表され、

トロフィ

が贈られた。

マイベストTV賞

●マイベストTV賞・ グランプリ

第6回グランプリに輝いたのは日本テレビの 「妖怪人間ベム」。受賞者として河野英裕、大 倉寛子の両プロデューサー、そして狩山俊輔 ディレクターが登壇。河野さんは「偉大なア ニメ原作を映像化するのは最後まで怖かっ た」と強い覚悟で制作に臨んだことを語った。 続編については「まだ言えません」と答えたが、 後日、12月公開の映画版が制作されることを 発表。投票者の代表として川崎市の栗原まど かさん(写真左端)がプレゼンターを務めた。



ラジオ部門



●ラジオ部門・大賞

故・小松左京のデビュー作『日本アパッチ族』 という古い作品を、スマートフォンなども登 場する現代に合わせてアレンジするのは難し かったのではと聞かれて、「皆で話し合って いろいろなアイディアを膨らませていったの で、むしろ楽しかった」という毎日放送ラジ オ局番組センター副部長の島修一さん。鉄を 食べた人間が鉄人となるという奇想天外なス トーリーから伝えたかったのは、「どんな形 になろうとも、生き抜く力が大切なのでは」 ということだと語った。

●ラジオ部門・優秀賞



リスナー8名を電話 で繋いだドラマの生 放送「ラジオなんで すけど」。途中で繋が らなくなっても「久米 宏さんはハプニング が大好きなので安心 していた」とTBSラ ジオの池田卓生さん。

時代劇「元禄・堂島 米市場螢舞」の制作 は朝日放送の橋本祐 子さん。創立60年 のABCだが「社屋が 建つ堂島は元禄時代 のパワースポット。 そこをヒントに、今と 昔をつないだ」。



司法界の反逆児だった弁護士 の生涯から日本の病巣を浮き 彫りにした「消えた月光仮面」 「検察が葬ってきた人物を描 いた」とHBCメディアクリエー トの後藤篤志さん。



●ラジオ部門・

DJパーソナリティ賞

番組でツイッターを駆使するニッポン放送の吉田尚記 さん。スマートフォンを右手に登壇し、「今、ユース トリームで生中継していて、300人以上のリスナーが これを見てつぶやいています」と会場を驚かせた。 「初めてラジオで葉書を読んだ人も、変わった人だと 言われたかも。今後も新しい可能性を感じさせること をやっていきたい」と語り、ユーストリームのリスナ ーに「今夜7時にトロフィを持って恵比寿駅に立って いるので、よければ集まって」と呼びかけた。



●テレビ部門・特別賞

特別賞はETV特集「ネットワークでつくる放 射能汚染地図」シリーズが受賞。登壇した NHKの増田秀樹チーフプロデューサーは「と にかく早くということで、勢いで原発事故の 4日後に現地に行きましたが、後から恐怖を 感じました」と語り、「シリーズの制作を終わ る日が来るのが一番いいが、それまでは続け ていくことに意義がある | と決意を述べた。

●テレビ部門·個人賞

個人賞を受賞した小泉今日子さん。今 年でデビュー30周年を迎えることに ついて「仕事ばかりして、気づいたら 30年が経っていました」と答え、場内 を沸かせた。自分がプロデューサーだ ったらどんなドラマを作りたいかとい う質問に「子どもの頃に放送されてい たドラマは大人のために作られていて、 それを見て自分も早く大人になりたい、 そして恋をしてみたいと思いました。 そんな憧れを持って見られるドラマを 作れたらいいですね」。



司会は小川もこ(左)、赤平大

15 GALAC 2012.8 2012.8 GALAC 14

志賀信夫賞



贈賞式では志賀信夫氏(写真左)と一緒に収ま った昔の記念写真も披露された。

志賀信夫賞

第3回の受賞者は、東北新社を設立 し外国テレビドラマの日本語吹替版 や映画、CMの制作、専門多チャン ネル放送局の立ち上げなどで業界の 発展に寄与した植村伴次郎さん。贈 賞式は体調不良のために欠席。代わ ってご子息で東北新社の代表取締役 社長である植村徹さんがトロフィを 受け取り、本人からの手紙を読み上げ た。「歴史ある賞を受賞することを 大変光栄に思っています」。声優の 羽佐間道夫さん(右)がお祝いに駆 けつけ「植村さんは声優の劣悪な待遇 を改善してくれた。大の恩人です」。



懇親会



●CM部門·大賞

震災の混乱の中、3月中にCMを立ち上げた熱意と気迫が認められた 「歌のリレー」シリーズ。サントリービジネスエキスパートの高上晋 さんは、「通常のCMと違い、趣旨に賛同してくれた人たちがすぐ に、スタッフは手弁当、出演者も無償で参加してくれました。だか ら、この賞はみんなと一緒に頂いたものだと思います」と語った。



●CM部門·特別賞

漁網でのミサンガ(環)作り を応援するほか、ボランテ ィアツアーのサポートなど もする「三陸に仕事を!プ ロジェクト」。その実行委 員長も務める岩手めんこい テレビの佐藤滋樹社長によ る「ミサンガはインターネ ットでも購入できます」と のアピールに、震災復興を 願う温かい拍手が沸いた。



CM部門

●CM部門·優秀賞



現代に甦った信長(木村拓哉)と秀 吉(ビートたけし)による東北ドライ ブ。「行先は視聴者の反応を見な がら考えたい」とトヨタマーケティ ングジャパン「Re BORN」シリー ズの西塚淳さん。



洗面所に立てられた歯ブラシが会話 する「歯ブラシ家族」シリーズ。「必 ず人数分ある歯ブラシなら、家族の 一人一人の生活や気持ちを表現でき る」と語った電通の篠原誠さん。

全報道活動部門

●報道活動部門·大賞

地域と生きる放送局の姿勢が評価された、絆いわて「ふるさとは負 けない!」キャンペーン。「会社を挙げての取り組みなので、評価 されて嬉しく思います。これからも頑張れ、という意味も込めての受 賞かと捉えています」というIBC岩手放送の放送本部報道局報道部 長・眞下卓也さん。「系列の方々の応援に勇気づけられました。ま だまだ震災は続いているので、これから何をやっていけるか、地元 の局として真価が問われると思います」。

●報道活動部門·**優秀賞**



の眼差し」は「深層心理が

今後も生かしたいと語った。

市営散弾銃射撃場鉛汚染 問題」と猟銃なしに防げな い農作物被害。地元の矛盾 と対立を「公正・公平をか なり気にして取材した」と 語る伊万里ケーブルテレビ ジョンの大鋸あゆりさん。





17 GALAC 2012.8 2012.8 GALAC 16